

日本共産党杉並区議会議員

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2017. 11. 1 NO. 210

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話・FAX 5932-6170
区議会控室 3312-2111(内)2319



2017 衆議院議員選挙 日本共産党12議席 野党共闘勢力前進

比例代表

党名	得票数	得票率
自民党	76828	29.83%
立憲民主	73471	28.52%
希望の党	41014	15.92%
共産党	28076	10.90%
公明党	18297	7.10%
維新の会	8552	3.32%
支持なし	6186	2.40%
社民党	2631	1.02%
こころ	1896	0.74%
幸福実現	629	0.24%
合計	257580	100.00%

東京8区

候補者氏名	所属	得票数	得票率
石原のぶてる	自民	99863	39.22%
吉田はるみ	立憲民主	76283	29.96%
木内たかたね	希望	41175	16.17%
おさない史子	共産	22399	8.80%
円より子	無所属	11997	4.71%
斉藤いくま	無所属	2931	1.15%
合計		254648	100.00%



主党が野党第1党に躍進し、共産党、社民党の3野党は公示前の38から69議席へと前進

今回の選挙戦直前、希望の党がつくられ、民進党が事実上解党するなど、野党共闘が危ぶまれる状況がありました。立憲民主党が結成され、共闘勢力の一本化のために、共産党は、全国67の小選挙区で候補者を降ろし、多くのところで自主的支援を行いました。結果、立憲民

主党が議席を減らしたことは、悔しく残念ですが、全国各地で作られた「共闘の絆」は、今後の活動に生きる大きな財産だと確信しています。同時に、市民と野党の共闘を進めながら、共産党自身、議席を減らさず躍進するための努力と探求が、これまで以上に求められていることも痛感しています。

10月22日に投開票された衆議院議員選挙で、日本共産党は、沖縄1区と比例代表で12議席を獲得しました。東京8区では、おさない史子は22399票、比例代表は28076票を得票

しました。ご支援に心から感謝申し上げます。改選前の21議席を確保できず大幅後退したことは、私たちの力不足であると考えています。

9条改憲阻止に全力

しました。共産党が議席を減らしたことは、悔しく残念ですが、全国各地で作られた「共闘の絆」は、今後の活動に生きる大きな財産だと確信しています。同時に、市民と野党の共闘を進めながら、共産党自身、議席を減らさず躍進するための努力と探求が、これまで以上に求められていることも痛感しています。

都の試算で、杉並区の保険料は1.25倍に 法定外繰入を継続し、値上げストップを！



の引き上げ
をストップ
させるため
に力を尽く
します。

区議会第3回定例会の決算特別委員会で、来年4月から「都道府県化」される国民健康保険について質問。都道府県化となっても、区独自の財政措置を継続し、保険料の値上げとしないよう求めました。

都道府県化の狙いは、区市町村が独自に行っている法定外繰入（赤字補填や保険料軽減など）のために自治体の一般財源から投入）をなくすることです。しかし、この繰入がなくなれば、東京都が示した試算のとおり、加入者一人当たりの保険料は、27年度の年額12万1983円から、15万2823円へと1.5倍、3万円も値上げになる可能性があります。

質疑では、厚労省がこうした試算結果を受け、急激な保険料上昇が生じないよう都道府県や区市町村に対応策の検討を要請したことを紹介。「自治体独自の繰入等をなくせば、住民に多大な負担が生じることは、国も認めざるを得なくなっている。繰入は不可欠であり、杉並区としても継続すべき」と迫りました。区は「法定外繰入は禁じられていないものではない」と答弁しました。

保険料額は、来年の第1回区議会定例会に提案される予定です。今でも高い保険料

杉並区のH29年度ベースでの1人当たり保険料額の試算結果

H29年度試算結果 法定外繰入前(A)	H27年度 法定外繰入前(B)	H27年度 法定外繰入後(C)	伸び率 (A/B)	伸び率 (A/C)
152,823円	149,779円	121,983円	102.03	125.28

※29年度ベースでの試算のため、30年度の保険料算定額とは異なる
(東京都国民健康保険運営協議会資料より)

2 H 東

豊かな財政力はくらし応援に 2016年度決算認定に反対

決算特別委員会の最終日、各会派による意見開陳が行われました。

日本共産党区議団は、杉並区が、区民の負担増や生活苦の実態に真摯に向き合い、負担軽減、生活向上に足を踏み出そうとする姿勢が見られないこと、公園の保育園転用や、高円寺地域の小中一貫校建設問題など、区民の声を無視した計画を強行していること等を批判し、一般会計ほか各特別会計について、不認定とする意見を述べました。

区は毎年20億、40億と財政調整基金（何にでも使える基金）の積み立てを行い、2016年度は364億円と過去10年で最大となりました。豊かな財政力は区民の切実な要望実現に振り向けるべきです。

就学援助の入学準備金 前倒し支給実施へ 党区議団の論戦が実る

決算特別委員会で、就学援助の入学準備金の支給時期を、中学校入学対象者については、2019年度分から入学前の支給に改めることが教育委員会から示されました。（小学校入学対象者については2020年度から）

現在、入学準備金については、入学後の7月支給になっており、区民から入学前に支給してほしいという声が上がっていました。党区議団は、こうした区民の声を繰り返し議会に届け、前倒し支給を求めてきました。

今回、杉並区が実施を表明したことは、区民の声と、党区議団の粘り強い論戦が身を結んだ成果であり極めて重要です。今後も、入学準備金の増額など、就学援助の拡充に向けて全力を尽くします。